

目次

P1	2021 年度企画展 「重監房を報道した男～関喜平展～」開催	P5	弔文庫を設置しました
P2 - P3	2020 年度企画展 「重監房跡を掘る★撮る ～黒崎彰写真展～」を振り返って	P5	お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)
P4	館内燻蒸・消毒報告	P6	2020 年度 来館者統計
P4	2020 年度ウォーキングツアー実施報告	P6	お知らせ
		P6	ご利用案内・アクセス

2021 年度企画展 「重監房を報道した男～関喜平展～」 開催

当館の名称にもなっている「重監房」とは「特別病室」という懲罰施設の名称で、かつて栗生楽泉園の中にありました。

病室とは名ばかりの「特別病室」の存在を世に知らしめたのはひとりの新聞記者、関喜平のスクープでした。1947 (昭和 22) 年 8 月 26 日に上毛新聞、27 日に毎日新聞で掲載されると記事の反響は大きく、翌 9 月には国会で取り上げられました。すぐに調査団が来園、10 月には「特別病室」が廃止されました。そして、この一連の動きは人としての尊厳を勝ち取る患者の人権運動へとつながっていきます。

関喜平はスクープから 3 ヶ月後に瀬木悦夫というペンネームで雑誌『大衆クラブ』に〈実話小説 特別病室〉を掲載し、3 年後に『特別病室』を出版しました。本展では『特別病室』にスポットをあて、関喜平の新聞記事と共に当時の栗生楽泉園の様子を展示します。

また、この度、関喜平が保管していた「要求書の回答記録」をはじめ、写真やスクラップブックを長男の関光さんより寄贈いただきました。「要求書の回答記録」には、当時 (1947 (昭和 22) 年 9 月) の厚生省がハンセン病の「伝染力は微弱」と認めている一文があります。公開は初となります。

当館では「特別病室」の一部を実物大に復元して常設展示しておりますので、あわせてご覧いただくことで皆様のご理解と想像力の一助となれば幸いです。

(鎌田麻希)



会 期：2021 年 7 月 21 日 (水)～9 月 26 日 (日)

会 場：重監房資料館

入館料：無料

【企画展イベント情報】

息子と孫が語る 関喜平

9月11日(土) 14時～

事前申込制 (8月20日より申込開始)

初めてのハンセン病史 一もうひとつの草津温泉—

ボランティアガイドによるウォーキングツアー

7月24日(土)・31日(土)・8月7日(土)・14日(土)・
9月18日(土)・25日(土) 10時～

事前申込制(随時受付中)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの詳細を変更する可能性があります。また、このトークイベントの web 配信等を検討中です。詳細は当館ホームページ等でお知らせします。

2020 年度企画展

「重監房跡を掘る★撮る ～黒崎彰写真展～」を振り返って 重監房資料館 部長 黒尾和久

重監房資料館の開館以来、いつかは行いたいと温めてきた企画であった。2019年度末をもって、開館以来、資料館の展示企画を担当してきた二人の学芸員が退職し、マンパワーが減じたピンチにこの札を切ることにした。

写真家・黒崎彰さんは、第一展示室「重監房再現」のためのエビデンス獲得に大きな貢献をした発掘調査の目撃者である。その作品は第二展示室「発掘調査による重監房検証」の解説パネルにも収まっているけれども、いかにも小さい。一度は大伸ばしにして発掘現場の様子をリアルに示したかった。発掘調査記録として冴えているだけではなく、作業員さんたちの息吹、現場の臭いや音、風や季節の気配など、視覚で捉えられないものまでが写しこまれているからである（写真1・2）。



写真1 房床下の様子を探る

東京在住の黒崎さんが重監房発掘現場に足繁く通った理由は、重監房再現に心血を注いだ笹雄二さんに「プロの目で写真を撮って残してくれねえか」と頼まれたからであった。笹さんのお墨付きを得た黒崎さんに、私も発掘現場で度々遭遇した。黒崎さんは、雨水の溜まった便槽の中から遺物が取り上げられる決定的シーンをものにし、現場調査の指導をした能登健さんや現場の作業員さんともすっかり親しくなった。出土遺物を笹さんに見せたときも同行して、「こんなもんがでんのかい？」という笹さんの表情を切り取った。笹さんは、遺物の出土には半信半疑であったが、予想をこえる数の物証を目の当たりにして、すっかり機嫌をよくした。その時、私は発掘の成功を確信した。

発掘調査後、重監房資料館の展示製作が佳境に入ると、先述した解説パネルに使用するための現場写真の提供を黒崎さんにお願ひし、それだけでなく出土遺

物の撮影も依頼した。その後、刊行される発掘調査報告書やシンポジウムの発表などでも黒崎さんの作

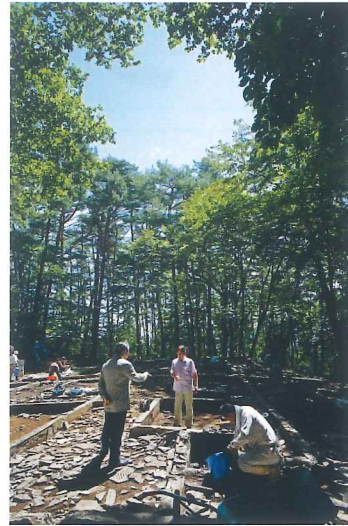


写真2 調査方法について論ずる

品を活用させてもらったが、国立ハンセン病資料館の研修室で行った遺物の撮影作業は私にも非常に学びの多いもので、今も印象深く心に刻まれている。

黒崎さんとは、私が国立ハンセン病資料館に勤めた2009（平成21）年からのお付き合いになる。2004（平成16）年から多磨全生園に

通い始めた黒崎さんが懇意になったのは、ハンセン病関連の資料収集に人生をかけたハンセン氏病図書館員の山下道輔さんだった。私は二人の交流に関するお話を、折りに触れて聴かせてもらっていて、あるとき栗生楽泉園に山下さんを車で乗せてでかけて行き、笹さんと面会して楽しい時間をすごしてきたという黒崎さんの話がはじまった。最初は怖かった笹さんが、栗生楽泉園自治会が所有する資料整理を黒崎さんが手伝ったこともあって、ときにお酒の力もかりつつ、すっかり胸襟を開いて語り合う関係になったのだという。お酒を飲んで上機嫌の二人の傍らにニコニコ顔の山下さんが常にいた。

私は黒崎さんから、笹さんと山下さんが永年にわたる交誼を続けてきたこと、それはまだ少年の笹さんが多磨全生園に在籍していたころに始まり、共通の恩師として寮父であった「おとつあん」こと松本馨さんが居たことを教えてもらった。松本さんが多磨の自治会を再建した折りに、山下さんは、「おとつあん」から療養所に隔離された入所者の「生きた証」となる史資料を集めるようにと命を受け、その言いつけをひたすら実践してきたのである。それが後に高松宮記念ハンセン病資料館の礎となる重要な仕事の一つになった。その山下さんも当初はどうしたら資料を集められるか大いに悩んだらしい。そこに助け船を出したのが、栗生楽泉園にいた笹さんであった。盟友の厚意にお礼の気持ちを綴った山下さんの手紙の写しを、企画展でも閲覧できるようにした。それも黒崎さんが山下さんの生前接写していたものであった。

重監房資料館の開館を待つように、2014（平成26）年5月11日に昶さんは亡くなった。重監房復元に執念を燃やした昶さんであったが、他方で資料の収集保全にも確たる一家言があった。当初は不思議に感じたが、山下さんから学んだこと、伝えられたことも多いのだろう。

重監房跡の発掘状況を黒崎さんの写真で示したかった私だが、黒崎さんの真骨頂は人物写真にある。写真展の準備過程で、黒崎さんの作品を媒介に、昶さんを中心に重監房再現に関わった人々も示せると閃いた。そこで永らく出番のなかった可動壁で第二展示室を仕切り、ウォールケースの「発掘調査による重監房検証」に対応するように調査風景のカラー写真群と動画の展示スペースをつくった。さらに証言映像のコーナーに対面するように重監房資料館の設立に関わった「群像」を白黒写真で展示する、もう一つのスペースを確保した。



写真3 天真爛漫 石楠花荘にて 2010年

「群像」は、もちろん黒崎さんがハンセン病問題に関わってからの作品になる。だからその晩年が中心になっているが、昶さんと山下さんの友情の証し（写真3）、そして欠かすことのできない藤田三四郎さん、鈴木幸次さんの姿、そしてモニターをのぞき込む昶さんが見つめるのが「おとつあん」松本さんの年譜（写真4）、といった写真を展示することによって、昶さんに表象される重監房復元精神の源泉をたどった。そして、これからその精神を引き継ぐ、岸従一さんをはじめとした現入所者自治会の方々の姿も示すこともできた。

また第一展示室「重監房再現」導入となるホワイエ左壁には、熊笹の尾根、栗生楽泉園の正門、重監房に続く小径、重監房の碑などの写真を配して、あたかも来館者が、栗生楽泉園正門から聳え立つ重監房にアプローチするかのよう効果も狙った。さら

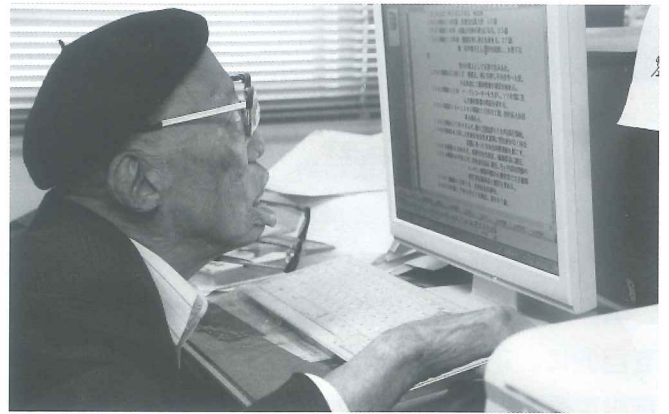


写真4 人生の先生か 松本馨さんだよ 2013年

に第二展示室の出口には、昶さん愛用の電動車椅子に、ご機嫌な一枚を乗せて、「どうだ！いいだろう？」と見送ってくれるような演出も行った。

このような内容で、ホワイエの頭と第二展示室の入口にバナーサインをだし、堂々36枚の写真パネルに動画映像を加えて「黒崎彰写真展」は開期を迎えた。写真展の準備に訪れた黒崎さんは、掲げられてゆく写真パネルをながめて、「これで昶さんとの約束が果たせた」としみじみつぶやいた。

全国の博物館施設に共通することであるが、2020年度は新型コロナウイルス感染症のまん延もあって、重監房資料館でも、臨時休館や入館制限があり入館者が少なかった。本来ならばもっと多くの方に見てもらいたい「写真展」であった。今後、製作した写真パネルは、重監房資料館の財産として保管して、常設展示において活用してゆきたい。館外展示などにも利用できるであろう。いくつか解決しなければならない課題があるが、そのための方策を思案しているところであり、関係各位のご理解とご協力を引き続きお願いしたい。

黒崎彰氏 プロフィール



黒崎 彰氏（くろさき あきら）

新潟県小千谷市生まれ。日本写真家協会会員。

コマーシャル、雑誌を舞台に主に人物撮影を中心に活動する。2002（平成14）年、多磨全生園のハンセン病図書館員だった山下道輔氏（故人）と知り合い、その後、山下さんを通じて、栗生楽泉園の昶雄二氏（故人）と出会う。

2013（平成25）年夏に行われた重監房跡の発掘調査を記録に収め、翌年の重監房資料館の開館に向けて、出土遺物の写真の撮影にも協力した。

館内燻蒸・消毒報告

2020（令和2）年9月3日～8日にかけて、館内の燻蒸、消毒を行いました。このうち4日間は臨時休館をさせて頂き、見学をご検討されていた皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

燻蒸は、収藏品、展示品の、主に虫損防止と保護を目的に、定期的に行う博物館施設定番の投薬、消毒作業です。9月3日の閉館後から、収藏品、展示物の解体、移動を行い、準備が整うと、スタッフは一斉に退去し、全館を密閉。後は専門業者に任せて、丸4日間、投薬と排気を繰り返します。検虫カプセル内の供試虫の殺虫処理効果確認と、排気後の各部屋の残留ガスの計測を終え、作業終了です。

収藏品や展示物を元の位置に戻し、ようやく9月9日に開館を再開することができました。

せっかく虫やカビは一掃できたものの、時間が経てば、再び燻蒸前の状態になっていくことは避けられません。これからも所蔵品の保護を第一に、博物館施設としての環境維持・管理に努めてまいります。

（香川進司）



2020年度ウォーキングツアー実施報告

2020年度も草津温泉から重監房資料館まで、草津温泉とハンセン病との関りを学びながら歩くというウォーキングツアー「初めてのハンセン病史—もう一つの草津温泉—」を実施しました。（8月1日、8日、15日）このツアーも3回目の実施となり、雨で中止になった回や、途中雷雨に見舞われた回もありましたが、草津の爽やかな高原の空気を感じながら、草津温泉から重監房資料館までご案内させていただくことができました。

昨年は例年と異なり、新型コロナウイルスの影響



等による参加人数の制限や、栗生楽泉園内の見学中止、途中シャトルタクシーを使っでの移動などがありましたが、参加された皆様からは「草津温泉の地が病の人々の療養地から観光の地へ移り変わってきたことを初めて知った。より問題意識や理解が深まった。」等のお声を頂戴しました。

今年度もまたこのツアーを実施したいと考えておりますので、実施が決まりましたらまた改めて広報をさせていただきますので、皆様にも是非ご参加いただきたいと思っています。

（小澤覚）

弐文庫を設置しました



故・弐雄二さんから重監房資料館に寄贈された蔵書を整理し、うち約1,400冊をレクチャー室の書架に設置しました。

どんな本なの？

弐さんの蔵書は大きく分けて、ハンセン病、社会問題、哲学書、日本共産党などがあり、もっとも多いのは詩や短歌などの文学作品です。弐さんと交流のあった方や弐ファンからの「謹呈」、先に天国に行かれた方から弐さんが受け取った遺品も多く含まれます。

楽しみ方は？

背表紙を見て異色の存在は、妖怪に関する本でしょうか。しかし本を開けてみると、蛍光ペンで、「墓場から生まれるのです。お母さんは幽霊に近いお方、お父さんは溶ける病になって、目玉だけ残ったのです」や、「“目玉”は、墓場から鬼太郎を指導し、良き妖怪にそだてたのです」（水木しげる『愛蔵版 妖怪画談』P.432）のところにラインが引かれていることに気が付きます。弐さんは、「目玉おやじ」がハンセン病だと知ったとき「仰天の声をあげるほどの驚き」であり鬼太郎を身近に感じたとのことが、ここからも感じられるでしょう。他にも付箋や角折りなど、弐さんの読まれた跡を残していますので、それを辿るのも興味深いと思います。

貸出をしているの？

残念ながら貸出はしていません。レクチャー室でお手に取ってご覧ください。劣化の激しい本は資料として保管したり、弐さんご自身も知人に本を譲られたりしているため、「弐文庫」が弐さんすべてを表すものではありませんが、弐さんが生きた一部分を感じていただけたら幸いです。

弐 雄二（こだまゆうじ）

1932（昭和7）年東京都に生まれる。1939（昭和

14）年ハンセン病発病。国立療養所多磨全生園入所。1951（昭和26）年国立療養所栗生楽泉園に転園。1999（平成11）年原告として東京地裁に「らい予防法人権侵害謝罪・国家賠償請求訴訟」を提訴。2001（平成13）年「ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会（全原協）」発足。同会会長、ハンセン病市民学会共同代表を務める。重監房復元のため尽力され、重監房資料館が開館したのを見届けるようにして2014（平成26）年5月11日死去。享年82歳。（松浦志保）

お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

◎収監された人々の状況が実感できた。感染症への差別、医療政策上の差別は現在も続く大事な課題である。特にハンセン病療養所の医療者の考えや行動は、もっと医療にかかわる者がしっかり学ばねばならないと感じている。医学教育にかかわる者として、これからもこちらの資料を活用したい。

（神奈川県、44歳・女性、看護師）

◎5月から7月まで、札幌のコロナウイルスクラスターが発生した施設で、看護、介護、緊急支援に従事した帰り道に立ち寄った。コロナウイルスの回復者にも医療搬送を拒否する病院があり、ハンセン病療養所差別に対する取組の成果が一気に覆される状況の中、もう一度学び直したく、来館した。資料館が、積極的に活用されることを期待している。

（北海道、59歳・男性、看護師）

◎何の理由もなく、不当に人を閉じ込めることが実際に行なわれていたことをリアルに感じる事ができてよかったと思います。今、コロナで改めて差別と偏見が問われていますが、この時期だからこそ、人権の恩義を考えることが大切。（埼玉県、58歳・男性）

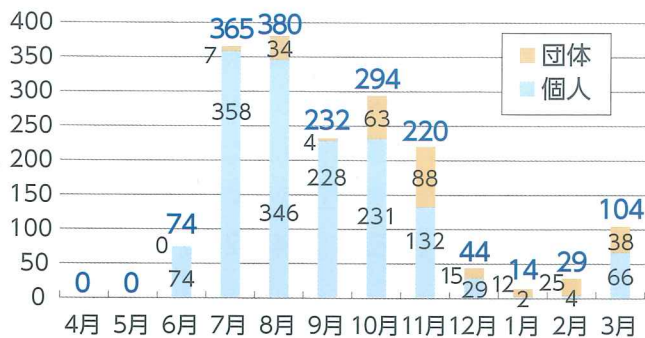
◎一番悲しいのは、ウイルスではなく、人の心の中にあるウイルスだと思いました。コロナ禍の今、同じ事を繰り返す事がない様に、日本人、世界中の人が知るべき事だと思います。ありがとうございました。

（埼玉県、46歳・男性、会社員）

◎重監房の存在については、これまで読んだ文献の中に登場していたので知っていましたが、収監理由や施設の実態の様子などが知る事ができ、よかったと思います。コロナウイルスが流行していますが、だからこそもう一度歴史を振り返ってみる必要があると感じました。（東京都、21歳・男性、大学生）

2020年度 来館者統計

入館者数



2020年度入館者数

延べ	1,756人
1日平均	7.6人
開館以来延べ	41,395人
※新型コロナウイルス感染防止による除外期間 2020(令和2)年4月1日～6月22日	

ホームページアクセス数

2020年度	54,887回
開館以来延べ	319,282回

お知らせ

■新型コロナウイルス感染拡大防止のための、来館者の皆様へのお願い

現在、重監房資料館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご見学に際しまして、下記のように来館者の皆様にご協力をお願いさせて頂いております。

1) 開館時間(11/15まで)：

10:00～15:30(最終入館15:00)に縮小させて頂いております。

※11/16以降の冬期予約期間は、

10:30～15:00(最終入館14:30)の予定です。
館内の見学者数を、常時9人以内、とさせて頂きまので、受付時にお待ち頂くことがございます。

2) 団体のご見学について：

9人以内で、受け付けさせて頂きます。

10人以上の場合は、見学するグループと、待機頂くグループ、というように複数のグループに分かれて頂きます。

- ・ホームページの「団体予約」の画面からご予約頂くよう、お願い申し上げます。
- ・展示解説は、当分の間、行いません。
ご了承の程お願い申し上げます。

3) その他：

- ・館内では、マスクの着用をお願い致します。
- ・受付時に、体温を確認させて頂きます。37.5℃以上の熱がある方は入館をご遠慮させて頂きます。
- ・展示資料、展示ケース等には、お手を触れないようにお願い致します。
- ・咳込みの激しい方、大声で話される方には、声をおかきすることがございます。

ご不明の点は、お手数をおかけしますが、重監房資料館までお問合せください。

■ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり」の館内上映について

昨年1月より全国各地で公開しましたハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり」(「知られてはならない秘密 ～患者の子と呼ばれて～」)「仙太郎おじさん! 貴方は確かにそこにいた ～展示資料に親族をみつけて～」を、当館レクチャー室でも、随時、上映いたします。視聴のご希望があれば、来館時にスタッフにお申し付けください。(但し、館内の見学者数、他の来館者の都合等により、ご遠慮頂く場合もございます。)

また、自治体、学校、諸団体の皆様には、ご希望があれば、DVDの貸し出しも行います。

詳細は、ホームページより、「重監房資料館レンタルDVD予約」をご覧ください。

※個人の方への貸し出しは、承っておりません。

ご利用案内・アクセス

開館時間 4/26-11/14(フルオープン期間)：9:30～16:00

※但し、当分のあいだ、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、

10:00～15:30(最終入館15:00)に縮小させて頂いております。

11/15-4/25(冬期予約期間)：10:00～15:30(団体、個人とも完全予約制)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

入館料 無料

交通案内 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約25分

草津温泉バスターミナル下車 タクシー約7分、徒歩約45分

車利用の場合 渋川伊香保ICより約2時間10分 上田菅平ICより約1時間50分

(草津方面からお越しの場合は楽楽園の正門を不入、その先200mの未舗装路をお入りください。)

重監房資料館「くりう」第17号【季刊】

発行日：2021(令和3)年7月1日/企画・編集・発行 重監房資料館/URL：<http://sjpm.hansen-dis.jp/>

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL：0279-88-1550 FAX：0279-88-1553